

今日のトピック 米国のGDP成長率（2017年4-6月期速報値）
個人消費を軸に成長率は再加速

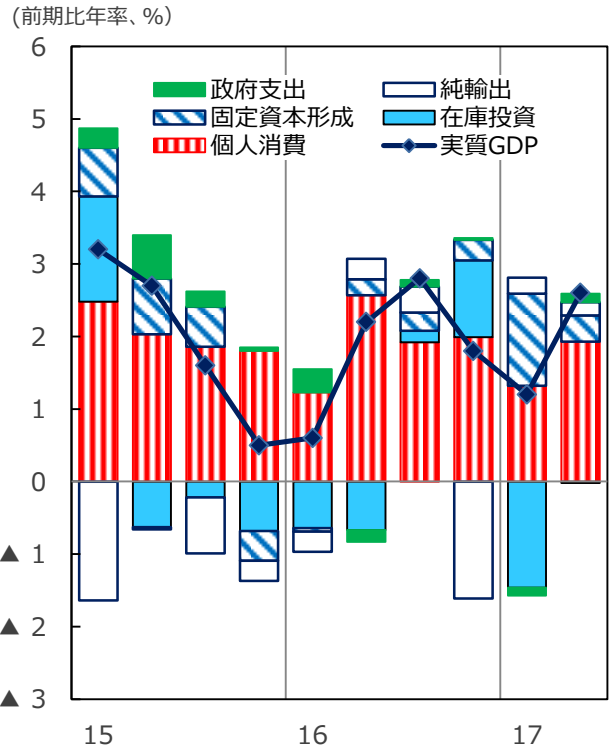
ポイント1 成長率は前期から加速
ほぼ市場の予想通り

- 米商務省が2017年7月28日に公表した4-6月期の実質GDP成長率（速報値）は、前期比年率+2.6%となりました。前期の同+1.2%を上回り、市場予想の同+2.7%にほぼ一致しました。個人消費の堅調な拡大と、在庫投資の回復によるものです。

ポイント2 良好な雇用が消費を促進
設備投資も底堅く推移

- GDPの需要項目を詳細に見ると、まず個人消費は前期比年率+2.8%と、前期の同+1.9%から加速しました。外食、娯楽といったサービス支出が低調だったのに対し、家具・家電や衣類等の耐久財および非耐久財支出が持ち直したためです。
- 設備投資は前期の同+7.2%から同+5.2%に鈍化しました。構築物投資の伸び率が同+14.8%から同+4.9%に縮小したことが主因です。機械設備投資は同+4.4%から同+8.2%に加速しました。
- 一方、在庫投資のGDPに対する寄与度はほぼゼロでしたが、前期の▲1.5%に比べ大幅に改善しました。在庫調整はほぼ一巡したと考えられます。

【米国の実質GDP成長率】



(注) データは2015年1-3月期～2017年4-6月期。
実質GDPは前期比年率、その他項目は同寄与度。
固定資本形成は設備投資と住宅投資の合計。
(出所) 米商務省のデータを基に三井住友アセット
マネジメント作成

今後の展開 個人消費を軸に景気は緩やかに拡大、株価も堅調な展開へ

- 良好な雇用・所得環境が維持されているため、今後も個人消費の拡大を軸に、米国経済は緩やかな成長を維持する見通しです。利上げは継続される見通しですが、物価上昇率が低い水準で落ち着いているため、そのペースは緩慢と考えられます。
- GDP統計はほぼ市場予想通りでしたが、良好な企業業績を好感して、ニューヨーク市場のダウ平均株価は史上最高値を更新しました。株価に割高感も浮上してきましたが、今後は公共投資等の政策が期待されるところです。

ここもチェック! 2017年7月25日 良好な米国の社債市場（2017年7月）
2017年7月19日 米国経済と株式市場の見通し（2017年7月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。